

イフジ産業の27年3月期、純利益1%増 液卵販売3%増の過去最高

2026/05/07 19:05 日本経済新聞電子版 569文字

液卵大手のイフジ産業は7日、2027年3月期の連結純利益が前期比1%増の20億円になる見通しだと発表した。液卵販売数量は業務用の需要増加で3%伸び、過去最高を更新する。年間配当は2円積み増し69円とする。

売上高は2%増の333億円、営業利益は4%増の29億円を見込む。中東情勢の影響でコストが2億～3億円ほど増えるが、液卵の販売数量増加で吸収する。

イフジ産業の藤井宗徳社長は同日の決算記者会見で、「足元で液卵を入れるビニールの包装資材が1.4倍、工場で使用する重油などが1.5～2倍ほどに高騰している」と説明した。



イフジ産業は27年3月期に工場のライン増設などに24億円を投じる（5月、福岡県粕屋町）

同社は31年3月期に液卵販売量を25年3月期より2割多い8万トンに増やす計画を掲げ、増産投資を進めている。今期は24億円の設備投資を計画する。販売量を約6万8500トンに引き上げる。

同日発表した26年3月期の連結決算は、純利益が前の期比5%減の20億円だった。工場のライン増設などで減価償却費が増えた。

売上高は27%増の325億円と5期連続で最高を更新した。液卵販売数量は2%増えた。同業他社よりOEM（相手先ブランドによる生産）の受注も増えた。

鶏卵を巡っては、25年秋ごろから発生した鳥インフルエンザの影響で鶏卵相場が高騰した。イフジ産業は国内の供給不足に備え、26年3月期はマレーシアから約4000トンの鶏卵を調達した。

許諾番号NK002943 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.